

会 議 結 果 の お 知 ら せ

1 開催した会議の名称

平成27年度第2回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会

2 開催日時

平成27年8月28日（金）13時30分から15時30分まで

3 開催場所

佐伯市役所 本庁舎 6階 大会議室（佐伯市中村南町1番1号）

4 出席者

- (1) 委員：(会長) 御手洗吉徳、(副会長) 出水薫、笹田哲史、太田博士、西條隆洋、
脇田文明、谷口久枝、脇坂浩、佐藤美穂、高橋博徳、大呂興平、江川俊彦、
木許和彦、久下律、白石哲也、染矢芳樹、佐藤政代、橋本千春、岩尾美穂
委員 28 名中 19 名出席

- (2) 市職員等：総合政策部長 久保田与治郎

(事務局：秘書政策課) 課長 武田晴美、政策推進係 総括主幹 金田隆、
岩切亮佑、安藤正充

計5名

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

(1) 議題

- ア 佐伯市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン及び総合戦略たたき台について
イ 意見交換

(2) 結果

総合戦略のたたき台について、委員から意見を頂く形をとった。今回、出された意見を事務局が検討することで終了した。

8 審議の内容

会長が議長となり、議事を進行した。資料について、事務局が説明をした後、意見交換を行った。

(質疑応答)

委 員 1千万円の交付金の上乗せがあると聞いた。パターン1とパターン2があるらしいが、佐伯市はどちらか。

事務局 パターン2の1千万円です。

委 員 1千万円の上乗せを狙っての取組に感じる。たたき台も県の計画を写したのに見える。本当にこの計画で人口減の抑制ができるのか。本気で取り組むのであれば、佐伯オリジナルを選択と集中でやった方が、実効性があると思う。

委 員 本審議会は、計画を策定して、その後、検証を行っていくと聞いている。10月までの計画策定を迫られている中で、各自治体は駆け込もうとしている。要は使い方ではないか。国主導とはいえ、これだけ多様な人材が集まる審議会はなかなかない。他の自治体では、この会を、地域の現状を把握し、危機感の共有を行い、ネットワークを構築して情報交換の場として運用しているところもある。本審議会の委員の皆さんが前向きな姿勢で取り組めば、審議会の位置づけは、如何ようにも変えられると考えている。

委 員 KPIの設定について、現状の分析をいつするのか。数値を出す頻度はどのくらいか。

事務局 現状分析については、庁内の担当部署が検証を行い、既に事務局へ提出済みである。検証については、年度末に1回、5年間行う予定である。

委 員 新規雇用者数をKPIに設定しているが、定義をどう捉えているのか。ハローワークでは雇用保険被保険者の加入等で把握することはできるが、パートタイマー的な雇用については入っていない。そういった関係で、KPI全体の定義を整理しておかないと、後で検証作業が難しくなる。

事務局 定義付けは、まだ行っていない。その際は、アドバイスを頂きたい。

委 員 基本目標と個別目標の関係と先行する取組との関係を確認したい。基本目標が大目標としてあり、大目標を具体化するために個別目標が部分としてあり、その中に先行する取組が事案として既に走っているという認識でよいのか。

事務局 そのとおりです。

委 員 人口減に抑制をかけるという取組が主であるが、いずれにしても人口は減少していく。減り方を遅くするという目標だけではなく、減り続けることにどう対応していくのかということも織り込んでいくような目標設定でなければ、前向きではないのではないか。減少したのに見合って地域をどう存続させていくのかということに貢献できる目標が欠けているような気がする。要するに2つの目標を明確に意識する必要があるのだろうということ。KPIの位置づけもそれに絡めていかないといけない。減少していく人口に対し地域をどのようにしていくのか。佐伯市はあまりにも大きすぎるので、佐伯市として計画を立てることは実効性がないのではないか。前回の人口シミュレーションでも合併前の市町村で増減率が全然違う。総じて減少していく中で、

それぞれの地域特性・属性に合わせた目標を設定すべきではないか。次回、考えてもらいたい。

人口減少を遅くするといった場合、自然減についてのアプローチと転入転出とのバランスの問題も分けて考える必要がある。それらの相互関係をどう捉えるかという、端的に言うと、佐伯市がどんな形で人が暮らし続ける場所であるのかというイメージを共有する必要があるのではないか。そのイメージに合うように、こういう風になれば人が転出しにくくなるであろう、こういう風にすれば人が転入して来るだろう、こういう風にやれば出産が増えるだろう、というような具体性を持たないと、KPIを設定しても意味がないのではないか。それについても「佐伯市」という大きな枠でベタっとするより、それぞれの地域で転入転出のあり方や家族の構成が違おうと思うので、手間は掛かるが、地域毎に目標を個別化し、KPIも個別化した方が良いんじゃないかと思う。

事務局 人口が減っても暮らしやすい佐伯市の目標・KPIの設定については、貴重な御意見として受け止めたい。追加していきたい。旧市町村単位の設定についても検討していきたい。ただ、10月までの策定でそれを盛り込めるかを確約することは出来ない。地域特性によっては、それをあからさまに出すと、誤解が生じるような懸念もある。特に小さい地域ではその設定が難しいようなところもあり、現時点では佐伯市全体のビジョンにとどめるべきではないかという意見もある。御意見については、もう一度、事務局で検討したい。

委員 2つ提案がある。合併した以上、市としてのアイデンティティを育まないといけないというのはよく分かるので、そういう観点とのバランスだと思う。であれば、作業としてはより難しくなるが、小学校区単位で考えていくべきではないか。小学校区は基本的に歩いて通える、移動手段に問題を抱える人達でもかろうじて移動できる範囲内で運営されているものである。そういう単位で考えて行く方が、実態に即していく。これはハードルを上げることになり、非常に大変な作業となるが、本気で実態を把握したいと考えると、小学校区の範囲内で物事を把握しないと実効的な対応は打てないのではないか。2点目の提案は、事情はよく分かります、10月という国が設定した期限があるので。事務局には大変なことをお願いしているが、本審議会の委員は、ものすごく真剣に取り組まれている。先行事例が今年度末から検証にかかる。その時期から集中的に審議会を開催してはどうか。あらかじめ改訂するスケジュールを決めた上で、今回は、ここまでで駆け込みますという合意があれば良いのではないか。先行する事例の検証を踏まえて議論する方が、さらに実りあるものだと思うので、そういったスケジュールをできれば提示していただきたい。

事務局 小学校区単位の地域性で考えるということも検討していきたい。それを検討する際に、第2版、第3版のスケジュールを勘案することも検討したい。

委員 将来の佐伯市のビジョンを話し合って、それを住民に知らせることに

よって、人口が減っていても、楽しい社会生活を送れるということを構築すべきだと思っている。自分は子どもを大分の中学に進学させたかった。話を聞くと周りにも同様の人が居た。こういうことも転出につながる。自分は蒲江出身で、市内の高校に通うためにバス代が2万5千円かかった。二人で5万円になる。そうすると、旧市内に引っ越した方が良いということになる。家を建てるのも、大学がある大分に建てた方が良いとなっていく。そういう一つ一つのパターンを潰していけば安心して暮らせるまちになるのではないか。それができる基本目標になっているのか。まずは、振興局単位のコンパクトシティを作って、何年後かにもっと小さい単位で考えれば良いと思っている。

委 員 この取組を知ったのは委員になってからである。市民は知らないと思う。もっと市民の意見を反映させるべきだと思う。委員の任期も5年だが、委員も変えていって、いろんな意見を反映させるべきだと思う。

委 員 KPIと目標が乖離している印象を持っている。地域ぐるみの子育てのKPIが「特色ある学校づくり」で良いのか。定住人口を増やすKPIが転入者数になっているが、人口減少は、おそらく転出が大きなウエイトを占めている。そういうものに目をつぶったKPIで良いのか。いろいろと目標とKPIに乖離があると思う。何故乖離があるのかと考えた時に、具体的な戦略がまだここにないためだと思う。目標とKPIのつながりが抜けている。具体的な戦略があつてKPIがある。今はそれがない。そこそこが、知恵が問われるところである。個別目標をどう実践するかを問われている。具体的な戦略を考えることが大事だと思っている。

委 員 農林水産業の観点からであるが、KPIについては、農林水産業の新規就業者の扱いも難しい。農業であれば、親元の農業後継者、雇用で働き始める者、農外から農業に参入する者の三種類に分かれる。この設定で良いのかというところがある。商工業の方では、創業者数がKPIになっているが、経営継承の目標がいるのかなと思っている。農業に戻るが、新規就業者は一部分でしかなく、一番大きなところは、人・農地プランであつて、最終的に農地を誰が耕していくのかが、一番、骨太の農業の議論で大事になっていく。

委 員 人口減について、自然増と社会増のそれぞれで分けているのが佐伯市の特徴である。高齢者、子育てなどの分野での取組が、この組立てで全て拾えているのか懸念している。KPIの「すすんで暮らし続けたいと思う市民の割合」は、どうやって把握するのかと思っている。

委 員 所属団体として商工業の振興について検討し、第3回の審議会に提案した

いている。地域で子育てという部分については、自分の地域は鶴岡であるが、子供に対して挨拶は良いが、それ以上話をしてはいけないということを知る。それで本当に地域で子育てができるのか。転入者を増やす施策も島根県浜田市のように転入者には5年間中古車を無料で提供するというような、思い切った施策が必要だと思う。

委員 人口は減り続けるだけでなく、中身も変わっていく。高齢化すること。その高齢者も佐伯市から離れている。佐伯で天寿を全うできない。遠くの子供が引き取りに来る。医師会としては、認知症に対する理解を深めたり、認知症の方を予防したり、支えていくことに心を砕いている。元気なお年寄りを増やすとか、元気であっても災害時には、地域の支えが必要である。子育ても大事であるが、全体の割合でみると、総合戦略のたたき台に高齢者という言葉が一つしか無い。高齢者の方がいかに元気に暮らして、災害に対してもお互いに助け合えるようなところをもう少し強く打ち出して欲しいというところはある。子育ても仕事もしやすい環境づくりについては、今は1/3が一人親。母親の場合はキャリアがないので、子育てしながら就業したい母親のキャリア教育にも目を向けていただけたらいいと思う。あと、小学校単位の話が出たが、佐伯の旧町村は小中一貫がすすんで、各町村部に一つとなっているので、旧町村単位と小学校単位は似通ってくる。教育の観点から見ると合併のメリットは大きい。一方で合併がすすまないところが何故あるかということ、学校がなくなることによって地域が寂れるということも判る。そういうところも意識していただけたら良いと思う。

委員 産業が発展しないと人口は留まらない。一次産業で貢献できるものを具体的に提案したい。イチゴは佐伯市の推進作物である。イチゴの生産者に意向調査をしているが、その中身は、将来の夢等が非常に多く見られる。これは生産者の声であるが、堅田IC周辺に2,000㎡～3,000㎡のイチゴ団地とそれに併設してパッケージセンターを作ってもらいたい。生産者の規模拡大と研修施設も兼ね備えた施設と考えている。現在、イチゴは土に栽培するのではなく、ベンチといって高いところで栽培している。ここでメーターオーナー（ベンチをメーター単位に分け、所有者を設定）を募ったらどうかという意見もある。市内外から人を呼び込めるのではないか。イチゴ狩りも楽しんでもらって、レストラン等の6次化も進めたい。民泊も提供したい。グリーンツーリズム・アグリツーリズムにつながり、佐伯の活性化になる。管内の生産者の技術は非常に高い、食える農業である。こういう施設ができれば、少なくとも100から200人の雇用が生まれる。イチゴ栽培のネックは初期投資である。2反程度のハウスで3千万円、自己負担は1千万円程度掛かる。ペイできる環境があれば、若者に限らず定年退職者の就業も見込める。

委員 人口減だけの理由で小中学校の合併が進んでいる。保育園も合併が進んでいる。考え方が違う。保育所が統合されて遠くなると、職場が佐伯であれば、保育所も佐伯にした方が便利になる。そうすると、佐伯に住んだ方がよくなっていく。本来、蒲江に住みたくて、蒲江で子育てがしたいのに出来なくなっていく。手続きも合併前と後では厳しくなった。預ける理由が変わったことで、手続きが必要になった。もっと地域に合ったようなやり方をしてもらわないと住みにくいと思った。また、先行した取組のブランドの佐伯殿伝の認証は基準がきちんとあるのか。それがないと難しいと思う。

委員 基本目標1子育ての希望をかなえるについて、自分の子供は蒲江で生まれた。蒲江を懐かしく思ってもらうために佐伯に帰ると蒲江に連れて行く。自分が育った地域を大切にすることが大事だと思う。大学進学等で佐伯を離れた人でも、自分の生まれ故郷に帰りたいたいと思っている人は多い。老後は佐伯の自然の中で暮らしたいと思っていると思う。そういうUターンの人を歓迎するような施策が一つあっても面白いのかなと感じた。基本目標2については、我々のところが頑張らないといけないと感じている。60代の経営者や若い経営者、親子の経営者など、様々な形がある中で、若い経営者が60代の経営者の話をなかなか聞けない状況がある。そういう所に我々も入っていきたい。基本目標4の佐伯の殿様浦でもつという文言がある。鶴見の灯台や城山の城趾など佐伯にはこういう素晴らしいところがあるというパンフレットなりを作ってもらえれば、市外の支店に置いて佐伯のPRが出来る。人の流れで言うと、コスモタウン等には鹿児島など県外ナンバーの車も多い。高速道路の開通を活かした市外から人を呼び込む施策を考えると良い。

委員 基本目標1－個別目標2のKPI「特色ある学校づくり実践指定校」については、ピンとこない。中身も判りづらい。私は中学校時代、野球部に所属しており、部員は100人ほどいた。当時は野球が好きでお互い競争しながら頑張っていた。同世代にはプロ野球選手になる人もいた。これから先、同じような状況をつくることは出来ないと思うが、野球が好きでプロ野球を目指して頑張っている子どもは多い。それを実現させるためには、かなり小さい頃から英才教育ではないが、その分野において一生懸命教えてもらうことが、これからの教育には必要ではないかと考えている。学校で言うなら、佐伯の学校で得意の分野を伸ばせるようなことはできないか。例えば、小学校で得意な分野を見つけて、この中学に行けば、この分野を中心的に勉強できるよというようなこと。九重町の緑陽中学は総合運動公園の中にあり、人工芝の陸上競技場がある。こういうようなスポーツに特化した中学校や、勉強に特化して将来総理大臣になりたいという夢を叶えるようなことはできないか。行政的にはかなり難しいとは思いますが、それぞれの子供がやりたいことを一生懸命出来る環境をつくることはできないか。その中で、高校も魅力ある学校

にしていって、佐伯市内でそれが実現できる環境が作れたら良いと思っている。

委員 佐伯の場合は、津波や自然災害について気になっているところだろうと思う。基本目標の順番が重要度の順番ではないと思うが、基本目標4の「災害に強いまち（人）をつくる」が一番にきて良いと思っている。先ず住んでいる人を守る。次に出産、子育てで若い人を増やす。次に外に人を出さない。最後に人を外から呼び込む。これが順番かなと私は思っている。佐伯は交通の便が良くない。先日の台風でもJR、バス等に影響が出た。高速道路が出来て便利になったというのは、車を運転できる人に限った話である。子ども達や高齢者が車を運転できるわけではない。どうしてもバス・電車に頼らないといけな状況であるので、自然災害に強く、なおかつ交通の便を今以上に良くするということが、住んでいる人間を守る一番大事なことだと思っている。人を呼び込むには、大学を作れば良いが、大学もたくさん出来ていてなかなか難しい。私立大学は、定員を満たしていない。経営困難になった私立大学を市立（公立）大学にするパターンが出てきている。そうすると、とたんに倍率が跳ね上がる。学費の差である。大学とかがあれば、人は増えると思うが、これが難しいことは承知している。延岡市には九州保健福祉大学があり、佐伯の高校生も進学している。大学進学という面では、佐伯市から延岡市に人が流れていることは確かである。

委員 基本目標等を見たが、ざっくりとしたものとなっている。おそらくこれについては、他市町村も同じ状況だろうと思う。要は、これからどのように具体的な取組を我々が作っていくかというところが鍵になると思う。折角、作る計画であるので、絵に描いた餅ではなく、佐伯の特色をいかした具体的な目標。そして目標を掲げた以上は、目標を達成できるように、それぞれ委員等の知恵を出しながら作っていければ良いと思っている。

委員 希望の子供数というKPIがあるが、先ず、若い人たちが結婚しない状況がある。先ず結婚できる出会う場をつくることが大事だと思った。それと、今、学校には、支援を必要とする子供が増えているが、佐伯には療育センターなるものがないので、皆さん別府・大分に通うようになる。週に1回など通っているとつらいので、そちらに住もうかとなる。その辺も機会があったら考えてもらいたい。

委員 佐伯の産業は成長している企業を見ると、市外・県外・国際的に取引している企業が成長している。KPIで新規雇用者数等があるが、商工会議所としては、それだけではなく、企業の成長力とか、そういった面での捉え方は出来ないかと考えている。佐伯で起業して、成長して、外貨を稼いで税金等で

も佐伯市に貢献しているという点を捉えて、成長している産業に対しての何らかの数値で評価をしてあげられたらと思う。

委員 今日議論を聞いて、この機会をどのように前向きにしていくかと考えた時に、事務局としても発想を変えざるを得ないような発言が多かったと思う。この際、この機会を行政体の佐伯市が前向きに使うのかということを、再度、全庁的に検討してもらいたい。具体的な部分では、人口減の問題で、高齢者や子どもについては、人に対してのケアの問題なので、結果としては、地域毎にあり方が違って当然である。むしろ、地域毎に地域の特性に合った子育て・高齢者への支援のあり方、あるいは保育所の配置等を地域毎に協議して、佐伯市が一様に同じ制度である必要がないのではないかという論点を含んでいると思う。

より多くの市民の声を聞くべきという意見があったが、この審議会だけで佐伯市のことを集約できるかという問題があって、その通りであると思う。誰も実際、佐伯の全容を知らない。今後問題になってくる子育て支援、高齢者ケアの問題にしても、非常に個別性、地域性を重視して、それを具体的に動かしていく仕掛けを作ることが、計画に入れられてしかるべきではないか。単に行政にとっての目標を提示する場としてこれを使うのはもったいない。むしろ、ここで多くの市民の方に現状を考えていただいたり、地域毎に考えてもらう場として、これを使うという構えをとるのであれば、例えば、地域毎に個別の分科会を作って、地域の課題を洗い出すとか、更に踏み込むなら、地域毎に子育て委員会なるものがある、それが全市の中で、どれだけ出来て、どれだけ活動しているかということがKPIになっても良いのではないかと思う。この機会をいかしていくには、それくらいのことをしないともったいない。そうするには、全庁的な位置づけの見直しが必要であろうと思うが、そういうことの誘い水の機会として使わなければ、大した成果は出せないというのが、そもそもの前提だろうと思うので、そういう使い方をしていただきたいと思う。

事務局 貴重な意見をありがとうございました。今後のビジョンや戦略を練り直すヒントがたくさんあったと思います。その中で、若干、事務局の説明不足の面がありました。もっと広く意見を求めるべきという御意見や、今回の機会を戦略の策定だけに終わらせるのはもったいないという御意見については、庁内の本部会議でも出されて、事務局も方策を考えている。その一つとして、本部会議及び幹事会の構成員が、それぞれの部署毎に出向いて行って、地域のキーマンとなる方や地域づくりをやっている団体等に説明し、意見を頂く取組を二百数十対象に対して行っている。また、市長ふれあいトークで市内全18か所に市長が出向いて、今回の説明を行った。さらに、振興局単位で地域振興審議会という住民の代表からなる審議会を持っている。その審議会にも諮問答申を行い、考えを頂くという取組も並行して行っている。いず

れにしても、今回の取組が戦略を策定するだけ、もしくは、交付金を獲りに行くだけではもったいないという考えは持っている。御指摘の通りだと思っているので、アドバイスに従って今後も進めていきたいと考えている。

9 会議の資料名一覧

- (1) 推進審議会の今後の流れ（策定まで）
- (2) 佐伯市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンたたき台の概要
- (3) 佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略たたき台
- (4) たたき台と意見、既存計画方針の整理
- (5) 佐伯市における先行した取組（K P I 記載）
- (6) 平成27年度第1回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会抄録
- (7) 平成27年度第1回佐伯市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進審議会会議録

10 問い合わせ先

担当課 総合政策部 秘書政策課 政策推進係
電話番号 22-4104 内線 586